

事業内容：防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
 学校防災アドバイザー活用事業の実施

題名：防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業
 （命の大切さを考える防災教育公開事業）
 （帰宅困難・引き渡し）

—自らの生命や安全を守ることができる子どもの育成—

所属・電話番号：市原市立若宮小学校・0436-41-2364

校長 八巻 正宏

1 実施事業

- (1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業の実施
- (2) 学校防災アドバイザー活用事業の実施

2 事業概要

- (1) 防災に関する授業や学校における防災教育活動の公開
- (2) 地震を想定した合同避難訓練の実施
- (3) 学校防災アドバイザーによる防災教育講演会の実施
- (4) 児童引き渡し手順再確認と訓練の実施
- (5) 保護者・地域との連携会議

3 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
4月	○校内避難訓練	児童・職員
5月	○救急法研修	職員 市消防署員
6月	○担当者連絡会議	関係担当者
	○一斉防災訓練	児童・職員 中学校職員・生徒 保護者・地域の方々
7月	○担当者連絡会議	関係担当者
9月	○校内避難訓練 引き渡し訓練	児童・職員 保護者

10月	○第1回校内研修会	児童・職員
	1・6年授業展開	学校防災アドバイザー
	低学年防災集会	教育関係者
	○6年救急法研修	6年児童 市消防署員
11月	○ワンポイント避難訓練	児童
	○防災体験訓練	児童・職員 市消防署員
	○ワンポイント避難訓練	児童
	○第2回校内研修会	児童・職員
12月	3年授業展開	学校防災アドバイザー
	高学年防災集会	教育関係者
	○担当者連絡会議	関係担当者
	○地区教育懇談会	学校・地域
1月	○防災教育公開	学校・地域
	2・4・5年授業展開	教育関係者
	研究発表・講演	市防災関係者
12月	○校内避難訓練	児童・職員
1月	○校内避難訓練	児童・職員

4 担当者連絡会議

	氏名	所属及び役職
1	米沢 久志	南房総教育事務所指導主事
2	山越 康義	市原市教育委員会指導主事
3	堀江 達也	市原市防災課 課長補佐
4	川上 悟	学校防災アドバイザー・県立鏡子高校
5	吉井 正勝	若宮団地連合自治会 会長

6	鈴木 隆	若宮団地連合自治会 防犯委員長
7	國吉 正彦	市原市立八幡東中学校 校長
8	鈴木 謙一	市原市立八幡東中学校 教頭
9	佐々木毅彦	市原市立八幡東中学校 PTA 会長
10	有村 憲一	市原市立若宮小学校 PTA 会長
11	八巻 正宏	市原市立若宮小学校 校長
12	堀川 裕二	市原市立若宮小学校 教頭
13	田中 恵子	市原市立若宮小学校 教務主任
14	宮内 聡穂	市原市立若宮小学校 研究主任

5 具体的な取組

上記の主題にむけ、「危険を予測する力」「的確な判断をする力」「命を守るための知識・技能」が児童にとって必要であると考え、育てたい力を『危険を予測し、主体的に行動する力』として、低・中・高学年の発達段階に応じて身につけさせたい力を明確にして実践した具体的な取組として、以下の活動を報告する。

- 命を守る防災学習
- 防災・避難訓練
- 児童の主体的防災活動
- 地域との連携活動

(1) 命を守る防災学習

研究の内容の一つ目である「命を守るための防災授業と防災教育の取り組み」として、次の実践を行い、災害時に主体的に行動できる児童を目指した。

ア 授業実践

(ア) 第1学年

「学校で地震が起きたら・・・」

「学校で地震が起きたとき、自分の命を守るにはどうしたらよいか」という課題を設定し、校内のどこが安全か。どこが危険かを考え、どうしたら安全に避難できるかを考え、発表した。



(イ) 第2学年

「下校途中に地震が・・・」

下校途中、地震が起きたらどのような避難行動をとるのか。また、自分たちの住んでいるところの安全な場所・危険な箇所について疑似体験を行い、発表し合うことで実際の避難行動にかされた。



(ロ) 第3学年

「こんなとき どうする？」

学校でのいろいろな活動場面で地震が起これば、自分たちがよく使い場所ではどのような危険が考えられるかを具体物を使って検証・確認をして発表し合うことで、災害をイメージし一人一人が命を守る行動に結びつけられた。



(ハ) 第4学年

「防災グッズに変身」

命を守りぬくための防災について知ろうと緊急時に役立つアイデアを話し合い、実際に作成することによって多くの方知ってもらい、少しでも実際の場面で役立てられるようにと身近な物でつくった防災グッズを紹介し合い知ることができた。

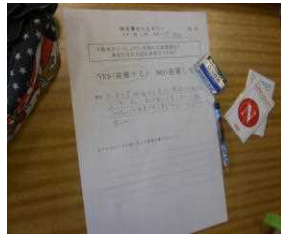


(ニ) 第5学年

「防災博士になろう」

上級生として、地震発生時に下級生との

関わり合いの中で、自分のとるべき避難行動について、クロスロードを使って考えを深めあい、自分の命を守ることが次の命を救うことにもつながるといふ考えを持つことができた。



(カ) 第6 学年

「防災メッセンジャーになろう」

災害時だけではなく、その後の生活や町の様子にも目を向け、様々な場面で自他の生命を守るにはどうしたらよいかを考え、人と関わり合いながら主体的に行動していく素地を養うとともに、家族や地域の一員として行動していかなければならないことに気付くことができた。



イ 防災体験学習〔煙道訓練・起震車体験〕

煙道や起震車で火災や地震の揺れを体験し、全校児童・職員がその中でのどのように命を守ったらよいか。火事や地震が想像以上に危険であることや避難が大変であることを実感することができた。日頃の備えが大切であることに気付いた児童が多くいた。



ウ 防災集会

本校の防災教育を実践するにあたり、年度当初より千葉県立銚子高等学校防災主任の川上悟先生にアドバイザーをお願いし、研究を進めてきた。防災について集会を通して災害のメカニズムや災害時の対応など具体的に考える場とした。

(7) 低学年集会

災害についてと「防災ダック」の実施

自分の体を動かして楽しく防災について学ぶことが出来た。一人一人の児童が意欲的に活動し、自分の命を守るにはどうしたらよいか考えを深める機会となった。



(1) 高学年集会

高学年は、日本には災害が多いことを知り、改めて防災・減災について考えることができた。日頃の備えや訓練が自分の命を守ることに繋がることを理解し、災害を怖がるだけでなく、備えておけば安心だと言うことを知った。



(2) 防災・避難訓練

ア 市原市小中学校一斉防災訓練

6月11日に市内一斉に防災訓練を行うことにより、防災・減災に対する意識の高揚を図り、大地震に対する対応能力を身につけ、小学校だけでなく中学生・地域や保護者と連携をとることが出来た。

中学生が小学生に声をかけたり、気遣ったりする様子が見られ、とっても心強い存在であった。いざという時に頼りになるお

兄さんお姉さん・地域の方が近くにいる安心感につながった。



イ 避難訓練（抜粋）・引き渡し訓練

定期的な避難訓練（ワンポイント訓練含む）とあわせて、大地震の際に児童を保護者へ確実に引き渡す訓練を行った。本校は、京葉工業地域のベッドタウンとして発展したこともあり、勤務場所が遠い家庭も多くあるため災害時に全児童を保護者に引き渡すことが出来ず、保護者・児童共に帰宅困難な状況に陥ることも考えられる。

今年度スムーズな引き渡しを行うため、引き渡し確認カードの見直しを行い、市の校務支援システムを利用して作成できるようにした。わかりやすく変更時など修正しやすいものができた。当日は前日からの悪天候も心配したが保護者の方々の協力もあり、スムーズな引き渡しが出来た。

校内での避難訓練は定期的を実施し、校庭や体育館への二次避難と津波を想定した三次避難を実施した。また、いろいろな活動時に地震等災害に対応する力を付けるため、ワンポイント訓練なども行い、自分の命は自分で守る意識と対応力が身についてきた。



(3) 児童の主体的防災活動

ア 生活委員会の活動

毎日、防災について校内放送を通して伝えることによって、全校児童が防災についての情報を耳にすることになる。自然な形で児童の防災意識が高まった。また、校舎内外の安全点検を実施し、児童の目線で危険箇所を見つけることができた。

学校の防災リーダーであるという意識を持って、何を伝えれば良いか真剣に考えて全校に伝えることができた。特に低学年でも簡単に覚えられるように、アニメ「ドラえもん」の替え歌を振り付けをつけて作成し発表した。



イ 通学路の安全点検

防災の視点で通学路を点検することによって、地震の際にどのように行動すれば良いか、どこに避難すれば良いかについて児童一人一人が確認することができた。下校班ごとに通学路の安全点検を行い、地震の際に落ちてくる物・倒れてくる物・移動する物・飛び散ってくる物がないか。また、いざという時にどこに避難すれば安全か、地区ごとに確認し安全マップを作成し、全校児童がいつでも見られるようにした。

ウ 宿泊施設の安全確認

修学旅行時等に宿泊施設の安全確認をすることによって、地震がいつ・どこで起きるか分からないことに改めて気付くことができた。同時に、児童が常に防災を意識するようになった。

(4) 地域との連携活動

地区教育懇談会（ミニ集会）

毎年実施されているミニ集会でも今年度は防災をテーマに取り上げ、本校職員、学区中学校・高等学校職員、保護者、地域の方が集まり、防災について考えた。

講師は、本校の防災教育アドバイザーを務めてくれた千葉県立銚子高等学校の川上悟先生にお願いし、防災教育セミナーとして災害と避難所運営に関して講義をいただき、その後グループに分かれて「避難所ゲーム HUG」を実践した。

本校のミニ集会は、近隣中学校1校との合同開催であり、地区の町会連合会の協力も得て実施している。約140名の参加があり、熱心な活動となった。

特に避難所運営ゲームでは、各グループ内で活発に意見交換が交わされ、実際の場面向けシュミレーションを行うことができ充実した集会となった。



6 成果と今後の課題

(1) 成果

【児童アンケートより】

[1回目；7月、2回目；11月実施]

ア 地震が起きた時、どこで身の安全を守ると良いと思いますか

<教室では>

1回目  93.1%

2回目  95.7%

<家では>

1回目  79.0%

2回目  85.8%

イ 緊急地震速報を知っていますか

1回目  49.3%

2回目  82.8%

ウ 地震が起きた時に必要な物について家族で話し合っていますか

1回目  23.1%

2回目  56.4%

○学校だけでなく、家庭でもどこに避難したら安全かわかる児童が増えたこと、緊急地震速報がどのような物か理解している児童も増えたことから、命を守るための知識や技能が身につくようになった。

○学校での体験や学習を児童が家庭に伝えたり、家庭や地域と連携した取り組みを行うことによって家庭の防災意識が高まった。

○各学年の発達段階に応じて命を守るための防災授業を実践したことにより、児童が主体的に判断し、行動しようとする意識を持つようになった。

○さまざまな場面を想定した訓練を重ねることによって、危険を予測したり、命を守るための避難行動について理解することができた。

○小中一斉防災訓練や地区教育研究集会（ミニ集会）を実施することによって、児童だけでなく、地域全体の防災意識が高まった。

(2) 今後の課題

●災害から身を守るための学習や訓練を繰り返し行い、更に児童に正しい知識と的確な判断力をつけさせる必要がある。

●「自分の命を守る」自助の力だけでなく、「協力し合って命を守る」共助についても考えていくことができるよう、防災教育の工夫改善を図っていかなくてはならない。

●これまで培ってきた防災意識を継続し、広げていけるように、家庭や地域との連携を更に強化していく必要がある。